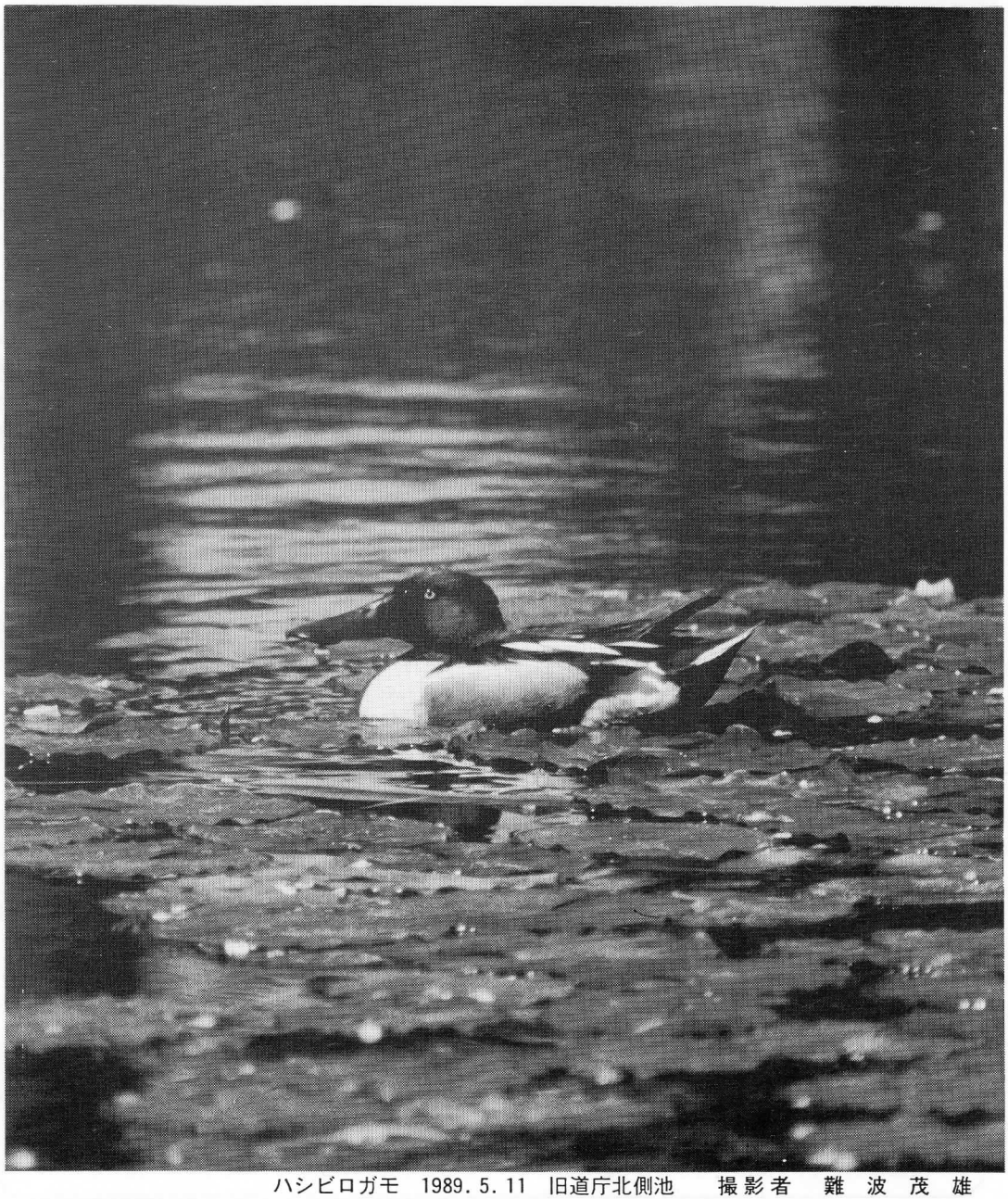
ISSN 0910−2396

野鳥だより —北海道—

第 82 号

編集・発行　北海道野鳥愛護会

発行年月日　平成２年12月21日



ハシビロガモ　1989. 5. 11　旧道庁北側池　　撮影者　難　波　茂　雄

苣野寿衛吉先生、御逝去

当会第３代会長の苣野寿衛吉先生は、かねて入院加療中のところ、平成２年10月５日、83才をもって永眠なさいました。

先生は拓銀常務を経て北電監査をながく勤められました。また当会設立発起人の一人として、会の設立に献身くださり、創立と共に、監事、副会長を歴任され、昭和59年度から62年度までの４年間は会長として、当会の発展に御盡力いただきました。

会員の皆様にお知らせし、会員の皆様と共に御冥福を祈り、心からなる哀悼の意を表します。

会 長　柳沢　信雄

私の探鳥地 ⑮
『屯田防風林と創成川』

矢　野　玲　子

未知の土地で案内書を見ながら、まだ見ぬ鳥を探すのも面白いが、見慣れた所で意外な鳥に出会うのも嬉しいものだ。先日、買物帰りに寄った屯田防風林でヤマガラを見た。探鳥を始めてから６年、ずうっと通い続けているのにここでヤマガラには会っていなかった。初めて出会った鳥の時のように胸がときめいた。

札幌の都心から北へ６キロ、新琴似と屯田を分けて屯田防風林はある。東西へ３キロのこの林はヤチダモ、クロポプラを主体とした31科74種の樹木が生え、鳥の好きな木も多い。

３月の末、あちこちでカワラヒワの囀りが始まる。続いてキジバト、アオジ、ウグイス。蝦夷山桜の花がほころび始めると必ず現れるメジロ達、チィチィと鳴きながら花から花へと移るさまはとても愛らしい。この頃になるとアカハラ、センダイムシクイ、オオルリ、キビタキ、ルリビタキ、コサメビタキも揃い見る楽しみは増す。

多くは３日から２週間の滞在で姿を消すが、営巣する鳥もいる。初夏、ヤチダモやドイツトウヒの上の方からトビ、チボハヤブサ、ハシブトガラスの雛の声が聞える。また巣に餌を運ぶシジュウカラやコムクドリなどを見つけたりする。

落葉をカサコソと踏みながら歩く頃、低木の繁みから突然ミソサザイが出て驚かされる。

雪が積っても道はあるが、カラ、ゲラ類、ヒヨドリ、ツグミ、シメ程度である。ハイタカの狩に出逢うこともあるがこんな時は本当にラッキーだ。

屯田防風林の東側に創成川がある。ここは凍らない。12月になると創成川下水処理場から屯田３番通橋の間はマガモ、コガモで賑やかになる。よく観察するとオナガガモ、カワアイサ、ウミアイサ、キンクロハジロが混っている。昨年はアメリカコガモ、マガンが確認された。

川岸のポプラ並木にはキレンジャク、アトリ、マヒワの訪れもある。オジロワシがやって来るのもこの頃だ。

１月になるとコガモの求愛が始まる。１羽の雌を10羽前後の雄がとり囲み、ピリッピリッと笛のような声で求愛するのは微笑ましい。

屯田防風林も創成川も特別な鳥はいないけれど間近かに鳥を見るにはよい所。通りがかったら、ちょっと寄ってみては如何。

∴　五十嵐博「屯田植物リスト」より

〒001　札幌市北区屯田３条１丁目５－１

サハリンバードウォッチングの旅 (2)

柳　沢　信　雄

○サハリン着（7月4日）

21時40分、着陸と同時に旧日本軍を思わせる軍服姿の兵士達がドヤドヤと機内に入り、何事か大声をあげたので一瞬緊張する。

怖々彼等兵士の前を通り機外へ出たが、これがユジノサハリンスク空港での唯一のチェックなのだった。

荒野を思わせるだだっ広い草原を徒歩でトボトボ進み、金網の仕切りに向い、ここから直接道路に出た。

十数人が車をとめて待つ出迎え風景に、その昔北海道を走る国鉄の列車から片田舎の駅に降りたような懐かしさを感じた。

州観光課ナンバーツー、通訳、運転者、世話人の紹介があり、ライトバンに荷物と一緒に乗りこみホテルに向う。

噂さ通りの悪路、それにも増してのカミナリ運転に驚かされた。うっかりしていると天井に頭をぶつけるか、座席からほうり出されそうになる。

舌を咬まないよう、きりっと口を結び前の座席にがっちりとしがみついてのドライブとなった。

少し慣れて気がついたのだが、無茶苦茶な運転と我々が勝手に感じただけで、当の運転者はそれなりに客への心くばりをしながら細心の注意をはらってとばしているのだ。

たいこう車が無い時は路面一杯に目を向け少しでも平らな所をえらび、右に左に縫うように車を進め、前走車が出ると土煙りを浴びせない為、猛スピードで追い越しをかける等精一杯のサービスぶりが見えホッとした気持になった。

それでも我が身の守りだけしっかりと続け、無事ホテルに到着する。

サハリン滞在中、このライトバンと運転者がずーっと最後まで一緒だった。

ホテルとは名ばかり、薄よごれ古びた建物、ドアを引いて中に入ると薄暗い土間があり、階段を正面に左側には戸棚やベットが山と積まれ、右側は仕切られた部屋で小さな窓がある。

一瞬、倉庫に連れて来られたかと思ったがここが今夜のホテルなのだそうだ。

勿論、エレベーターもなければ、シャワーや冷蔵庫も置いてはあるが使えない。急なペレストロイカにあわてて、とにかくホテルとして再使用することにし、工事中なのだ。

ツメナガセキレイ

夕食後ナンバーツー（ナターシャ）を迎え明日からの日程を打合わせ、午前二時半、就寝、時差ハバロフスクより更に一時間。

○ツメナガセキレイの湿原（7月5日）

車中より市内観光を済ませ、途中鳥獣保護監視官（現地鳥類学者）を迎え、総勢十二名で郊外のスキー場に向う。

やっと今回旅行の目的、サハリンバードウォッチングのはじまりである。見はらしの良い広場で各自が野鳥に集中しだしたところ、突然スピーカーから歌声が流れだした。

遠来の日本人観光客歓迎のつもりらしいがこちらにとっては迷惑千万、それでも遠く針葉樹々上でさえずるカラフトムシクイの姿をとらえたり、近くでノゴマを楽しむことが出来た。

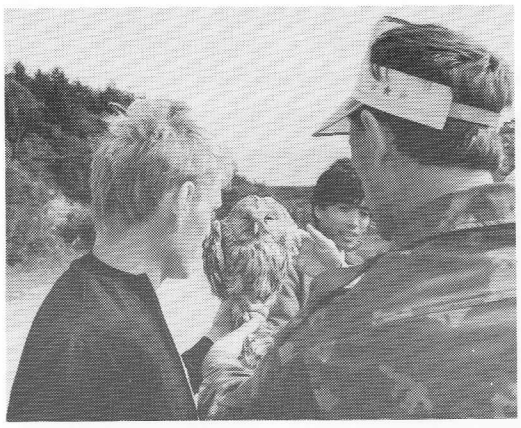
ドーリンスクへ悪路を飛ばす。突然後輪パンク、あやうく惨事をまぬがれるハプニングもあったが、目ざす湿原に着く。

ツメナガセキレイ、シマアオジ等の繁殖地に入る。ゆっくり観察を楽しむのかと思っていたら、すぐ次の探鳥地へ移動を促される。

我々は特別な研究、調査に来た訳でない。野鳥の群れるこの湿原でゆっくりし、存分に鳥達と過したいと移動をことわる。ナターシャ一人を残して我々を湿原に解放してくれた。

15時、再び合流し、白鳥湖で水鳥観察、通訳に聞けば水鳥はすべてアヒルなのでまいった。

夕食を途中のレストランで済ませ、ホテルに向う。ハードな一日であったが、サハリンの野鳥に出合えた喜びは大きく、満たされた気持であった。



フクロウを見せてくれる。このあと放鳥。

○フクロウの草原（７月６日）

八時出発、途中山あいの渓流で朝食、アルゼルスキーから今夜の宿泊地、湖畔の宿で昼食と周辺散策の後、オジロワシの湿原に向う。

オジロワシが悠々と舞う広大な湿原だ。オオジシギの飛び立ち跡に足を踏み入れるところからはじまった湿原内縦横の踏破行は時間を忘れて、各自勝手気儘に探鳥を楽しむ。

所を変え、内陸の草原に入る。カメラを構え、マイペースで鳥見する紀夫氏が一人草原に取り残された時だった。一台のトラックが何か大声で叫び、片手をふりあげて通りすぎる。何事かわからないが、とにかく皆の所にもどる。先刻のトラックが引きかえして来て大声で鳥学者と話している。

不安顔の我々を見て通訳の金さんが話してくれた。「この近くでフクロウをつかまえた。あなた達は鳥を見ているようだから、見たければ持って来て見せてやろう。」と言っているのだそうだ。予期しない幸運を期待し待つことにした。

ほどなく、助手席にフクロウをつかみ到着した。フクロウは意外におちついた様子で姿を見せてくれた。ゆっくり見せてもらった後その場で放鳥、私達はトラックの親切に感謝の気持をこめて、ここを「フクロウの草原」と呼ぶことにした。

チビ湖をまわり、湖畔の宿にもどる。旅行中只一度となるサウナを楽しみ、美しい夕日を眺め夕食となる。

ここではナターシャ達が腕をふるい、漁協ナンバーワンを迎え盛大な懇親会となった。

酒が進む程に盛りあがり遠慮がちだった同行者の垣根が一気にふきとび、互いに精一杯語りあった。

○ホルムスク探鳥行（７月７日）

アルゼルスキー～コルサコフ～ユジノサハリン～ホルムスクと一気に走る。途中鳥学者と別れた。

市内見学、ホテルでの昼食の後、鮭鱒孵化場を見学し周辺の探鳥行となる。

鳥学者から解放され、我々ペースの気儘な野鳥観察にもすっかり慣れたナターシャ達もそれぞれ勝手に自然を楽しむ、互いにゆったりした探鳥行となった。

サハリン最後の夜なので、通訳の金さんとナターシャが夕食を共にする。二人は食後もゆっくり歓談を続けた。

○ビオニールキャンプ場（７月８日）

通訳もコンダクターも抜きの全く我々だけの市内見学を無事済ませ、午後ホルムスク北部海岸の草原とビオニールキャンプ場周辺の森林に入る。

巨木はないが静かな道幅のせまい林道に数多い昆虫、野鳥の姿や声、サハリンの探鳥をしめくくるにふさわしい満たされた気持になれた。

お世話になった人々と空港で別れ、ナターシャ１人がハバロフスクまで同行してくれた。

○ハバロフスク森林公園（７月９日）

昼食を持ち、バスで森林公園に向い、終日ハバロフスクの鳥達との出会いを楽しむ。

通訳のいないグループでナターシャをたよりに互いに「会話集」で片言の言葉を交わしながらだったが、すっかり気心の知れた仲、何の不安もなく探鳥が出来た。

ツアー最終日と知ってか、わざわざ道端に次々と姿を見せてくれるチョウセンメジロ、シベリヤウソ、キマユホオジロ、サンショウクイ、シベリヤムシクイ等々、更に頑丈な巣箱がひとつ、帰り道ホオジロの巣で元気なヒナ達がバードウォッチングツアーの劇的なしめくくりを作ってくれた。

屋外での食事風景

○ツアーをふりかえって

・外国に来たのだから、日本で見られない鳥が見れれば、と漠然と期待しての参加だったがこれでは鳥達がいた、見た、で心に焼きつくものが薄く、すぐ記憶から消えてしまう。

目のつけどころをしっかり決めて参加すべきであった。

・初めてバードウォッチングツアーを迎えるとの事で咬み合わない点も多かったが、こちらの希望を積極的に取り入れたツアーの形が序々に出来た事に満足したい。サハリン観光課ナンバーツー（ナターシャ）に大きく期待する。

・今回のツアーが少人数の鳥に魅せられた集まりとなった事がとても良かった。

勿論　日ソ旅行社のコンダクター京野氏、同行アドバイザー柳沢紀夫氏の献身的な行動がとても嬉しく、ツアーを何倍にも盛りあげてくれた。

〒003　札幌市白石区栄町８丁目３－11

ハバロフスク・サハリン探鳥旅行記録鳥種

1989年７月３日～10日

	ハバロフスク				ユジノサハリンスク												ホルムスク			ハバロフスク	
	３日	４日			５日			６日					７日				８日			９日	
	市内	アムール河畔公園	市内公園	アムール河遊覧	市内観光、スキー場	白鳥の湖ユージノスク～湖	白鳥の湖周辺	ルスキー～湖畔の宿～朝食～ユジノ～コルサコフ	湖畔の宿周辺	オジロワシの湿原	フクロウの放牧地	チビ湖	湖畔の宿周辺	ホルムスク～ユジノスク～コルサコフ～アルゼルスキー	鮭・鱒鱒化周辺	海（ホルムスクの南部岸）	市内	海（ホルムスクの北部）岸草原	キャンプ近く）森林（ビオニール	森林公園	森林公園往復市内
1. アカアシミズナギドリ																○					
2. カワウ		○																			
3. ウミウ														○							
4. ヒメウ								○						○							
5. アオサギ		○		○								○									
6. ハチクマ																				○	
7. トビ				○											○						
8. オジロワシ										○											
9. マダラチュウヒ																				○	
10. チュウヒ	○																				
11. ノスリ										○					○						
12. ハイタカ																		○			
13. チョウゲンボウ	○	○	○																		
14. キングロハジロ												○									
15. スズガモ							○					○									
16. シノリガモ														○							
17. コチドリ							○														
18. ヤマシギ											○										
19. オオジシギ								○		○	○										
20. ヒバリシギ										○											
21. ウミネコ								○						○				○			
22. セグロカモメ				○																	
23. オオセグロカモメ								○	○					○							
24. シロカモメ							○														
25. ユリカモメ		○		○																	
26. ミツユビカモメ														○							
27. アジサシ		○		○																	
28. コシジロアジサシ							○														
29. ウミガラス																○					
30. キジバト							○							○	○	○		○	○		
31. カッコウ							○													○	
32. ツツドリ															○		○				
33. フクロウ											○										
34. ハリオアマツバメ		○																			
35. アマツバメ	○		○	○	○				○	○						○	○				○
36. コゲラ								○			○				○				○		
37. オオアカゲラ																				○	
38. ヤマゲラ															○						
39. ヒバリ				○																	
40. ショウドウツバメ				○			○		○	○				○	○	○		○			
41. ツバメ	○		○				○		○												

	ハバロフスク				ユジノサハリンスク												ホルムスク			ハバロフスク	
	3日	4日			5日			6日					7日				8日			9日	
	市内	アムール河畔公園	市内公園	アムール河遊覧	市内観光、スキー場	白鳥の宿ユードリンスク〜〜	白鳥の湖周辺	ルスキー〜湖畔の宿ユジノ〜(朝食)コルサコフ	湖畔の宿周辺	オジロワシの湿原	フクロウの放牧地	チビ湖	湖畔の宿周辺	ホルムスクコルサコフ〜ユジノ〜アルゼルスキー〜〜	鮭・鱒孵化周辺	(ホルムスクの南部)海岸	市内	(ホルムスクの北部)海岸草原	キャンプ近く)森林(ビオニール	森林公園	森林公園往復市内
42. コシアカツバメ	○	○	○																		○
43. イワツバメ	○	○	○	○												○					○
44. ツメナガセキレイ							○	○		○				○							
45. ハクセキレイ		○		○			○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○			
46. ヒンズイ						○								○						○	
47. サンショウクイ																				○	
48. アカモズ						○									○				○		
49. ミソサザイ								○											○		
50. シマゴマ															○						
51. ノゴマ					○				○						○					○	
52. コルリ					○					○					○					○	
53. ルリビタキ					○			○							○					○	
54. ノビタキ					○	○	○	○	○	○	○			○	○	○		○			
55. マミジロ															○						
56. アカハラ															○						
57. シロハラ																				○	
58. ヤブサメ																				○	
59. ウグイス															○				○		
60. エゾセンニュウ													○								
61. シマセンニュウ							○														
62. マキノセンニュウ								○			○	○									
63. コヨシキリ										○											
64. ムジセッカ						○		○													
65. カラフトムジセッカ						○		○										○		○	
66. カラフトムシクイ					○			○				○		○	○				○	○	
67. メボソムシクイ					○			○						○							
68. エゾムシクイ															○						
69. キビタキ															○				○		
70. コサメビタキ																				○	
71. エナガ																				○	
72. ハシブトガラ		○																		○	
73. コガラ								○												○	
74. ヒガラ							○	○			○	○	○		○			○	○	○	
75. シジュウカラ		○													○			○		○	
76. ヤマガラ															○				○		
77. ゴジュウカラ											○									○	
78. チョウセンメジロ																				○	
79. キマユホオジロ																				○	
80. ミヤマホオジロ																				○	
81. シマアオジ							○														
82. シマノジコ																	○				
83. アオジ					○	○	○	○	○		○		○		○					○	
84. カワラヒワ					○	○	○	○	○			○	○				○				
85. マヒワ					○			○	○		○	○								○	
86. ベニマシコ					○		○								○						
87. ウソ								○	○			○	○					○			
88. ハイイロウソ																				○	
89. シメ																				○	
90. イカル																				○	
91. スズメ	○	○	○	○	○	○	○		○				○		○	○	○	○			○
92. イエスズメ	○																				○
93. シベリアムクドリ		○		○																	
94. ムクドリ														○							○
95. コウライウグイス		○																			
96. カササギ	○	○	○	○																	○
97. ハシボソガラス						○	○	○	○	○			○	○	○				○		
98. ハシブトガラス					○	○	○	○	○	○		○	○	○	○		○			○	

（同行アドバイザー柳沢紀夫氏のまとめ）

話 題 の 鳥 た ち (2)

井 上 公 雄（本会幹事）

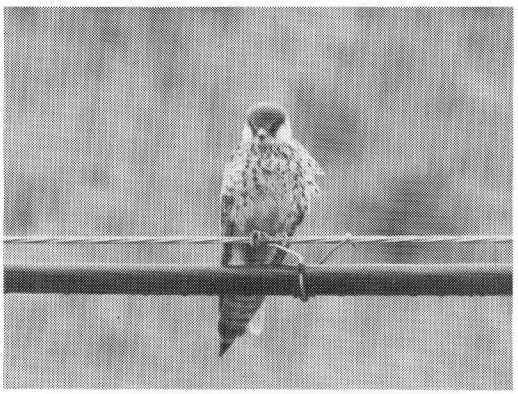
利尻島で迷鳥アカアシチョウゲンボウを観察

ヨーロッパ中部、アジア、シベリア北部、コーカサス、ハンガリー、中国北部等で繁殖し冬期は南インド、南アフリカで冬を過ごすアカアシチョウゲンボウが利尻町南部で観察された。この迷鳥を発見観察したのは利尻町沓形の町職員で日本鳥学会、日本野鳥の会道北支部、及び本会会員でもある小杉和樹氏で、1988年6月19日同町仙法志字本町に在る町立博物館の前の電線に留まって居たところを発見した。最初はチゴハヤブサだろうかと思ったが、足が赤いので他種だろうと写真を撮り、図鑑と照合アカアシチョウゲンボウと確認した。

翌20日には約6K程北西の仙法志久連の道路脇の電線に留まり、草地に降りては昆虫を捕らえ採食して居た。観察者の都合で短時間の観察に止まりはしたが、比較的人を恐れる様子もなく、良く草地面に降りて昆虫類を採食して居た模様で，一箇所に長く居ることはなく、少しづつ移動して居たことから、その後の行方は分からない。アカアシチョウゲンボウは丘陵や原野、農耕地等の疎林が散在する様な林縁地に好んで生活する。

主にバッタ類の昆虫や蛙、トカゲ、ネズミ等の小動物を捕らえ、小鳥を捕食することもある。

ヨーロッパでは集団繁殖すると言われるが、アジアでは



アカアシチョウゲンボウ　88.6.19　小杉和樹

その例はないと言われる。

一腹4－5個を産し乳白色の地に赤褐色又は紫褐色の微細斑や大きい斑がある。抱卵日数は22－23日、孵化後26－27日で巣立つ。急テンポでキィッキ、キィッキと速く鳴く。2亜種がある。道内では1985年（昭60年）6月2日根室で、1988年6月19、20日に幼鳥を、国内では1979年（昭54年）5月27日新潟県信濃川河口で雄一羽、1981年5月3日長崎県対馬佐護と同県五島列島で雄各一羽、更に翌日五島列島で雄2羽などの記録がある。

カササギ、稚内に定住か？

ユーラシア大陸の略々全域、北米大陸西部と分布域が広く、生活力の旺盛なスズメ目カラス科のカササギは、我が国では佐賀平野と長崎、福岡、熊本県等に局地的に留鳥として生息して居るが、固体数の変化は少ないとも言れている。此の地方のカササギは、豊臣秀吉の時代に持ち込れたものだとの説もあるが定かではない。

カササギ　90.6.3　稚内市声問　高田 誠

本道に於けるカササギの記録は少なく、昭和58年11月函館、同年12月室蘭市地球岬付近、翌年1月3日同市みゆき町で、同21日車中から写真撮影に成功、3月4日18日測量山でも観察、番いと思われる2羽であった、これ等は同一個体との見方が強い。

その後伊達市との境界に近いチマイベツ浄水場付近で、更に2年後の10月、高速道路苫小牧西インター付近でも観察して居る他、羽幌・道東にも未確認情報がある。

1988年1月27日稚内市声問の理容業工藤敏雄さんが自宅の裏に数羽のカラスの中に、見慣れない鳥が留まって居るのを発見、カメラに納めて宗谷支庁自然保護係に調べて貰いカササギと分かった。此の写真にはテレビアンテナに留まって居るシロハヤブサも一緒に写っていると言う。珍しい記録になり地元で話題になった。

その後同年10月、声問大沼の白鳥給餌場付近で、翌年3月29日、4月9日、5月17日、6月4日24日更に今年5月12日13日、6月3日、7月28日何れも声問とその海岸で、日本野鳥の会道北支部会員の観察、写真撮影に依って確認されている。観察者の一人高田誠さんの話に依ると、ハシボソガラスと一緒に餌を採ったり、屋根、電柱、

樹木等に留まり地上に降りてゴミをあさる等カラスに似た行動を示し、雑食性で生活力が旺盛と見受けたとの事、沿海州、カムチャッカ等のカササギ本来の生息域と稚内の地理、気象等の類似性や、やや局地的生息の傾向の強い習性を考慮すると、発見以来同一個体が通年居座って居るのではないかと、興味深く見守られている。

90年5月3日には天売島で、本会会員佐藤幸典氏、桝川弘子さんが、翌4日に佐藤氏が再び観察した。佐藤氏と桝川夫妻が探鳥中、桝川夫人がコルリをスコープで観察中、偶然その視界に飛び込んで来たもので、思わずカササギ、カササギと叫びながらその姿を追い続け、居合わせた佐藤氏も殆ど同時に飛んで行くカササギを双眼鏡で追い続けた。両人とも写真や図鑑で見覚えて居たので直ぐカササギと分かった。島に居残った佐藤氏は翌4日にも、前日の場所から5、6百米離れたお寺の側の樹の上に留まって居るのを見付け、写真に撮ったが、人やカメラを意識し、警戒して居る様子で間もなく飛び去った。

この鳥について、もっと観察例が増えると分布域や生棲の状況などがより具体的に明確になり、特定個体の越冬状況などが報告されるようになるかも知れない。

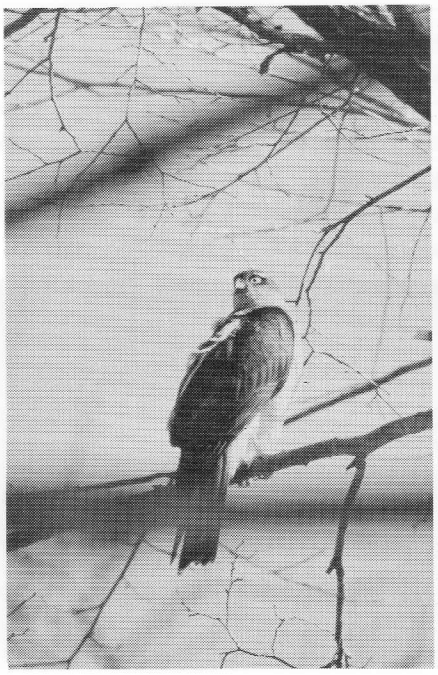
参考文献

- 日本産鳥類図鑑、東海大学出版会、1982年版
- 生物大図鑑　鳥類　世界文化社　昭和59年版
- 鳥630図鑑　(財)日本鳥類保護連盟　昭和63年版
- 朝日新聞　昭和63年10月31日
- 北海道新聞　昭和63年11月3日

誌上写真展

オオワシ　石橋孝継

キマユツメナガセキレイ　佐藤幸典



ハイタカ　石橋孝継

オオジュリン　　難波茂雄

ハシブトガラ　　山本　一

オオワシ　　佐藤幸典

ホウロクシギ　　山田良造

コマドリ　　山田良造

ヒシクイ　　佐藤　勇

初めて参加した探鳥会
－東米里－

2．6．17

上　田　正　徳

入会して、突然の投稿依頼で少々恐縮しますが、自己紹介と今までの経過を書かせていただきます。私は東米里に生まれ育って四十数年になり、この地にて農業を職業として生活をしています。物心のつく小学生時代から今までの移りかわり、川の流れ、道路横の草木、鳥のさえずり等、身のまわり全てが少なからず変化していることに気付きます。必ずしも良い方向に変化しているようには思えません。また農業についても、自然に大きく影響を受けやすい産業の一つですが省力化、高能率化の名のもとに、機械化、化学肥料、農薬の多投化によって土が荒されているのが現状です。私は、現在小さな抵抗として、地力を維持する農法を模索しながら、新しい農業をめざしています。

日頃、仕事をしながら、スズメ、カラス以外に色々な鳥たちが庭先に来ていることが門外漢の私にも気がついていました。また、娘の担任の教師が「東米里の野鳥と野草」という写真展を開くなどで、その写真を収集、アルバム整理する中でこの東米里地区に色々な鳥が生息していることに気付きました。

六月某日、貴会主催の探鳥会開催の案内記事を見るに到り、参加してみようと思いました。雨が上がりの一日でしたので仕事の都合もちょうどよかったと思います。右をみても左をみても知らぬ人ばかりで、仲々とけこめない状態でしたが、井上さんの紹介で、鳥の観方、名前の覚え方、双眼鏡、望遠鏡の見方等、色々と指導して下さり、一つ一つが、私にとっては新鮮でした。

最後に、野鳥チェックリストを見ながら24種の鳥を確認したとの事、名前と実物が記憶されているのはその中のごくわずかにしかすぎません。名前を覚えることのむずかしさを初めて気づかされました。

私自身、時間的に余裕をもった仕事をしていないので充分、参加することはできないと思いますが、時間のゆるすかぎり、探鳥会その他の会合に参加したいと思います。よろしく御指導のほどお願いします。

〒003　札幌市白石区東米里2132

〔記録された鳥〕アオサギ、トビ、マガモ、コウライキジ、イソシギ、オオジシギ、キジバト、カッコウ、アリスイ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、アカモズ、モズ、ノビタキ、コヨシキリ、オオヨシキリ、ホオアカ、アオジ、オオジュリン、カワラヒワ、スズメ、シメ、ムクドリ、コムクドリ、ハシボソガラス　以上25種

〔参加者〕道場　優、川端功治、福永恒夫、霜村耕介、大西典子、竹内英子・京子、白田千枝子、高橋孝次・洋、三船幸子、永島良郎・トキ江、黒田知篤、泉　勝統、羽田恭子、佐々木武己、千葉　広、志田博明・政子、泉屋宣久・恵津子、福村ケイ子、吉田忠勝、霜村耕一、河野千枝子、富田寿一、鎌田　博、上田正徳、柳沢信雄、川守田順吉、井上公雄　以上32名

〔担当幹事〕霜村耕一、永島良郎

夜の探鳥会に参加して　－平和の滝－

2．6．23　　大　沼　　裕

今年の「夜の探鳥会」には是非とも参加しようと思っておりました。というのも昨年、情報センターのパンフレットでこの探鳥会を知り、家族をつれて参加しようとしたのです。しかし、帯広から転勤してきたばかりで地理の不案内から、「平和の滝」へ行くはずのものが滝野公園の方へ行ってしまい、妻子の冷たい視線を浴びてしまったのです。ですから、今年こそは何としても参加しようと思い、事前に地図で確かめ、ドライブがてら一度行ってみたりもしました。

当日、18時30分には数十名が腰に蚊取り線香を下げるなどして集まっておりました。幹事から日程を伺った後、コノハズクとの出あいを期待しながら川に沿った山道を登り始めました。途中、ヤブサメ、ツツドリ、ジュウイチ、アオジなどの鳴き声も聞こえ、さらにマミジロの「キョンチー」という声も聞こえてきました。わたしにとってマミジロは初めてです。遠くに姿も見えましたが、体色はよくわかりませんでした。

1.5km位歩いた所でコノハズクを待つことにしまし

た。やがて、「聞こえる、聞こえる」というので、さらに耳をすませてみると「コッコー」と低い鳴き声が聞こえてきました。これだ！。テキストにあるように「ブッポーソー」とは聞こえなくても、その調子からコノハズクだと思いました。おそらく「ブッポー」が「コッコー」と聞こえ、後の「ソー」の部分が聞きとれていないのではないかと思います。また、この場所ではヨタカやヤマシギの鳴き声も聞くことができました。その後、先輩諸氏から野鳥のことを色々伺いながら下山し、大変充実した探鳥会でした。

いっとき仕事から解放され、森の静寂の中で小鳥達の鳴き声の中に浸ると、ストレスの満ちた身にすがすがしさが戻ってきます。私はこちらの愛護会の探鳥会に時々参加させていただいておりますが、今後もできるかぎり参加したいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

〒062　札幌市豊平区西岡２条５丁目９－12

〔記録された鳥〕ヤマシギ、キジバト、アオバト、ジュウイチ、ツツドリ、コノハズク、ヨタカ、アマツバメ、アカゲラ、キセキレイ、ヒヨドリ、コルリ、マシジロ、トラツグミ、クロツグミ、アカハラ、ヤブサメ、ウグイス、キビタキ、オオルリ、シジュウカラ、アオジ、クロジ　以上23種

〔参加者〕丸山　薫、永島良郎・トキ江、泉　勝統、渡辺俊夫、戸津高保・以知子、佐々木陽子、伊村利広・ひろ美、吉田忠勝、高橋典彦・久子、澁谷弘子、三船幸子、今野　弘、志鎌　陸、大沼　裕、志田博明・政子、難波茂雄、井上公雄、中野高明、武沢和義・佐知子、竹内強、新妻　博、佐々木武己　以上28名

〔担当幹事〕渡辺俊夫、井上公雄

福移探鳥会に初参加して　－福　移－

2．7．1　　笹　谷　敏　郎

わたくしは４月22日野幌森林公園の探鳥会に初参加し、入会させていただきました。

大麻団地に住むようになって20数年、森林公園との付き合いも長いのですが、今までは専ら体育専門ースキー、森林浴ーでした。一昨年公園事務所の「秋の観察会」に参加して、草木の知識の一端に触れ感嘆しました。その際、スレ違った一団が探鳥会なるものだと知りました。植物と違い、敏しょうで警戒心の強い野鳥のこと、骨折り損の多いことだろと察しておりました。

その年のこと、庭先に来た親雀が子雀のくちばしの中に餌を入れてやる微笑ましい仕種に刺激されて給餌台を作り、雀につられて集るシジュウカラ、シメ、アトリ、そしてキレンジャクの数十羽の群舞に魅せられて、餌台でのウオッチングに精を出しておりました。昨年の晩秋家内と森林公園「学びの森」の奥深い小径を散歩していたとき、身の囲り２～３米の枝々に、綿人形のような十数羽のシマエナガが現われました。数分か十数分か、息をつめた目の前で、小鳥達は餌を啄ばみ、ひそやかに囁き、やがて姿を消しました。まさに夢幻の世界から目覚める想いがしました。そして自然の中で野鳥との触れ合いができるのだと、そしてそれが最も素晴しいことなのだと悟りました。

入会以来森林公園での催しには毎回参加し、リーダー・会員の方々の手引きで、野鳥との出合いを楽しんでおりましたが、福移は初めての遠征となります。集合場所でまずエゾセンニュウの啼りーあまりにも鮮明なのでテープかと思ったー。牧草地でノビタキ、オオジュリン外、石狩川堤防内ではアオサギ、ウミアイサ、コヨシキリなどなど。しかし圧巻はノゴマの胸の赤色。この鳥を見付けてくれた方（氏名不詳、大変なベテランの婦人）に心から感謝いたします。

それにしても福移の自然環境は急速に狭められているとの驚きの声を聞きました。野鳥を見詰めることは環境を見詰め、鳥達を愛することは自然を愛することに通じるのだと気付きました。これからも皆さんの導きで自然を考えていきたいと思っております。

〒069　江別市大麻園町18－17

〔記録された鳥〕アカエリカイツブリ、アオサギ、トビ、マガモ、ウミアイサ、ウズラ、ウミネコ、キジバト、カッコウ、アリスイ、ヒバリ、ショウドウツバメ、ハクセキレイ、アカモズ、モズ、ノゴマ、エゾセンニュウ、マキノセンニュウ、コヨシキリ、オオジュリン、カワラヒワ、スズメ、コムクドリ、ムクドリ、ハシボソガラス、ドバト　以上26種

〔参加者〕小路義夫、五十嵐優幸、富田寿一、佐々木友子、泉屋宜志・恵津子、吉田忠勝、山田良造、鈴木良二・あや子、羽田恭子、鎌田　博、新田キノ、富川　徹、柳沢信雄・千代子、千葉　広、山田甚一、小堀煌治、佐々木武己、三船幸子、難波茂雄、吉岡孝夫、笹谷敏郎・京子　以上25名

〔担当幹事〕富川　徹、千葉　広

鵡川探鳥会に参加して　－鵡　川－

2．8．26　　佐久間　博　之

初めての北海道旅行、もちろん鳥を見るのが第一の目的で、友人と二人で旅立って来ましたが、交通手段が鉄道バスと足だけということもあって、北海道の広さは聞いてはいたが実際に歩いて見ると、いけどもいけども目的地に着かないということもあって一日に一ケ所しか見られないと言った具合で道東の方面を中心に廻って来ましたが、８月26日に鵡川河口で探鳥会があるとのことで早速参加させていただいた。初めての人達と場所なので参加に気後れしていたが訳を説明して同行させていただいたが会長さんがあの友達が面倒見が良いと言われて山田・佐藤両氏に紹介していただきおかげで初めての鳥と広い牧場での馬を間近に見られて良い思い出となりました。その後鵡川河口での生活排水問題で排水の水路を作られた為に干潟が小さくなり渡って来るシギチドリが少なくなっているとの話しでしたが、住民の生活・開発と自然をどう調和させるか私達だけではなく一般の方々にも、自然の大切さを認識してもらう事をしていただければならないのを痛感しました。

又北海道は広大でまだまだ自然が残っていると思っていましたが、山は低い所では頂上まで湿原でもどんどん道を作って入って行く様に見えたので、あまり便利さだけを追掛けないで、たまには不便な所（自然）を残していかなければならないと思われた。

〒350　埼玉県川越市小ヶ谷140－11

〔記録された鳥〕アオサギ、トビ、カルガモ、ムナグロ、シロチドリ、メタイチドリ、オグロシギ、チュウシヤクシギ、キアシシギ、タカブシギ、ソリハシシギ、イソシギ、キアシシギ、タシギ、トウネン、ヒバリシギ、ハマシギ、エリマキシギ、ウミネコ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、シロカモメ、キジバト、ヒバリ、ショウドウツバメ、ツバメ、ハクセキレイ、ノビタキ、オオジュリン、カワラヒワ、ベニマシコ、スズメ、ムクドリ、ハシブトガラス　以上32種

〔参加者〕今野　弘、佐久間博文、高橋　洋、澁谷信六・弘子、千葉　広、鎌田玲子、泉　勝統、大野信明、今泉秀吉、戸津高保・以知子、三船喜克・幸子、笹谷敏郎、大西典子、難波茂雄、野坂英三、丸山　薫・かおり、成沢里美、中嶋信子、大町欽子、佐々木武己、稲葉孝徳、竹内　強、石谷義一、富川　徹、小路義夫、吉田喜代実、福村ケイ子、三浦美重子、竹内義仁・英子、志田博明・政子、山田良造、佐藤　勇、武沢和義・佐知子、柳沢信雄、佐藤正秀・正孝、小堀煌治、新田キノ、吉田忠勝、井上公雄　以上47名

〔担当幹事〕山田良造、富川　徹

鵡川探鳥会　－鵡　川－

2．9．9　　須　藤　昌　子

探鳥会があることを新聞で知って、JRで出かけた者ですが、移動の際に車に乗せて頂いたり、フィールド・スコープを覗かせて頂いたり、皆様には大層お世話になりました。お蔭様で、楽しい一日が過ごせました。

午前９時半、鵡川駅前に集合。晴天続きだから牧草地で餌をとるシギ、チドリは見られないかもしれないと言われながら探鳥地へ向かう。牧場内の柵に沿って歩き始めた時、オオタカを観察。幸先がよいぞと目も耳も少し敏感になってくる。続いてツミ、ノビタキ、ヒバリ、カワラヒワなども観察して放牧地へ入っていく。「北海道探鳥ガイド」を読んで、河口まで通路が続いていると思っていただけに、針金を外して入るのでは、「ガイド」を頼りにして来たら惑うのではと気になる。放牧中の馬の傍を歩いていくと、窪地からタシギが飛び立ち、上空にはチュウヒが現われた。河口の水は濁っているが、時折魚が跳ね上り、岸辺には釣り人が並んでいる。めざすシギ、チドリは対岸近くにいる。カモメも向う側だ。フィールド・スコープがずらりと並んで、説明と観察が始まる。雄と雌、成鳥と幼鳥、夏羽と冬羽、探鳥の際の注意点がシギの場合には、かなり微妙だ。図鑑を広げ、説明してもらってスコープを覗けば、わかった気になるが、同じ鳥を違う場所で見てもわかるかしらと心許ない。馬が水を飲みに近くまでくる。ここにはイラク紛争の影なしといった隠やかな風景の中で弁当を食べ、鳥合せをする。９時40分から12時30分までの間に観察した鳥は36種で、そのうちシギ、チドリは10種だとわかる。えっ、そんな鳥もいたのと、自分の観察眼の足りないことがわかる。配られたチェックリストは５回使えるもので、これからも有効に使えそうで有難い。

現地解散後、汽車がくるまでの時間つぶしに歩き出したが、誘ってもらって対岸まで行く。土木工事中の排水が溜って出来た広い池にマガモ、コガモ、カルガモが群

をなして泳いでいる。大橋を渡ってこちらに来てみれば先程までいた鳥の数はぐっと減っていて、探鳥も思うに任せないと実感する。駅まで送ってもらって帰途につく。

皆さん、有難うございました。

〒066　千歳市北栄１丁目４－46

〔記録された鳥〕アオサギ、トビ、チュウヒ、オオタカ、ツミ、コガモ、マガモ、カルガモ、ムナグロ、ダイゼン、シロチドリ、メダイチドリ、オグロシギ、ツルシギ、アオアシシギ、イソシギ、タシギ、トウネン、ウミネコ、カモメ、オオセグロカモメ、シロカモメ、ユリカモメ、キジバト、ヒバリ、ツバメ、キセキレイ、ハクセキレイ、ノビタキ、オオジュリン、カワラヒワ、ベニマシコ、スズメ、ムクドリ、ハシブトガラス、ドバト　以上36種

〔参加者〕佐々木武己、古川豊子、佐藤幸典、小堀煌治、田中金作・礼子、栗林宏三、千葉　広、永島良郎、遠藤　茂・幸子、田中志司子、国本昌秀、香川　稔、戸津高保・以知子、笹谷敏郎、柳沢信雄・千代子、野坂英三、山田良造、須藤昌子、清水朋子、斉藤賢一、三船喜克・幸子、国島達夫、竹内　強、吉岡孝夫、小林、大野信明、井上公雄　以上32名

〔担当幹事〕大野信明、竹内　強

紅色（べにいろ）に映（は）える野幌の森　－野幌森林公園－

2．10．21　　今　野　　弘

〝カケス〟

大沢口に集まると、すぐ濁ったカケスの声。ギャーッギャーッとしわがれた……お世辞にも美しいとは云えない。ファファッと直線的に飛ぶ比較的警戒心の強い鳥であって、タカや小鳥の声を上手にまねという特技のもち主である。その上に犬や猫そっくりの声をだすのが奇妙だ。都会の街中にもやってくるヒヨドリなら、人間に飼われている犬、猫の声を拾い込みをすることはやむを得ないにしても、林の中を飛び廻るカケスがどんなプロセスで物まねをするようになったのだろうか。その声は、早春の繁殖期に多いという不思議な鳥である。それにしても、やがて目を白黒させ、パクパク、パクパクとすごい勢いでドングリを飲みこむ光景が見られることであろう。

〝ウソ〟

フィーフィーと口笛に似たやわらかい声のウソが、ユズリハコースの中ほどで聞かれた。頬と喉の赤い♂が非常に印象的で、低い山地や平地に下り、落葉樹林で木の実や木の葉をたべに夫婦仲のよい姿をみたいと思っても、一度飛びたつと、さあっとはるかに飛び去る性質のウソには無理と云えよう。

〝キクイタダキ〟

ところどころの針葉樹からは、細くて少しきしみがちのツィーと、ヒガラより弱い感じの地声が聞こえてくる。１円玉五個分の重さ、つまり５ｇという日本で最も小さい小鳥、キクイタダキである。繁殖期の♂は、からだの地味な色からは想像もつかない、頭上には美事な菊の花を思わせる黄橙色の冠羽の扇を開く。晩秋のこの頃の彼は、それほどにないにしても、可愛いい姿に歓声をあげたくなるもののひとつである。

〝コゲラ〟

道の両側の落葉樹林からは、ギィー、ギィーと、古くなったドアーの開閉に似た声がする－囚人服をすまして着こんだようなコゲラである。それでも交尾をするときか、他のなわばりの個体と争いをするときはキョッ、キョッと鋭く鳴く。冬じゅう使ってきた畤穴を、いち早く渡ってきたニューナイスズメに横取りされる気弱さがあるためか、産卵期をとおして♂は夜間抱卵する。♀はその間、他の樹の畤穴に寝ているのだと知るに及んでわたし共の男性としては複雑な思いをするのは、はたして当世流であろうか。

〝見返り坂〟

秋深まる大沢園地から両側の美しいカエデ類と独特の樹の肌と姿をもつカツラの大半を賞でるカツラコース。昔なつかしいカルメラの香りのカツラ落葉を踏みしめてゆるやかな坂を登りつめると、黄変のイタヤカエデと緑の針葉樹との間に、ひと際美しいモミジの大木が眼に飛びこんでくる。野幌森林公園での自然観察のキワメツケ〝見返り坂〟の絶景である。

〒001　札幌市北区新川４条６丁目２－15

〔記録された鳥〕アオサギ、ハイタカ、ノスリ、コゲラ、オオアカゲラ、アカゲラ、ヤマゲラ、ヒヨドリ、ミソサザイ、ルリビタキ、ツグミ、キクイタダキ、ハシブトガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヤマガラ、ゴジュウカラ、キバシリ、アオジ、カワラヒワ、ウソ、カケス以上22種

〔参加者〕鎌田博・キサ、大槻日出、今野弘、小川秀子、泉勝統、笹谷敏郎、野口正男・キヨ、武沢和義・佐知子、犬飼弘、杉田範男、西論・早百合、鎌田玲子、森田新一郎、沢部勝、渋谷一郎・幸子、斉藤賢一、山田良造、吉岡孝夫、新田キノ、戸津高保・以知子、桝川保・弘子、大西典子、富田寿一、矢野昭二・玲子、佐々木武巳、吉田忠勝、山田としえ、高野哲雄・あつ子、菅原哲夫、栗林宏三、野坂英三、井上公雄以上41名

〔担当幹事〕戸津高保、井上公雄

〔野幌森林公園〕
平成３年２月17日(日)
寒い雪の中のウォッチングです。歩くスキーを楽しみながら、カラ類やキツツキ類などを観察します。その年によって違いますが、アトリ、ウソ、マヒワなどの冬鳥が見られることもあります。雪の上に残るノウサギやキツネなどの足跡が観察できるのも、この例会の楽しみとなります。素歩きでも参加できます。
午前９時　大沢駐車場入口集合

〔円山公園〕平成３年３月３日(日)
陽ざしが春らしくなってくる円山公園を歩きます。思わぬ鳥に出合うこともあります。餌台にトラツグミが現われたり、イスカやベニヒワが見られた年もありました。
午前10時　円山公園管理事務所前集合　午前中解散

〔ウトナイ湖〕平成３年３月24日(日)
この時期、オオハクチョウ、ヒシクイやカモ類が北帰途中でウトナイ湖に羽根を休めます。湖畔からネイチャーセンターまで歩きますので長靴が必要です。ほぼ毎年オジロワシやオオワシを見ることができます。これらのワシがゆうゆうと湖の上を飛ぶ姿はいいものですね。
午前10時　ウトナイレイクホテル湖畔側集合
(行)道南バス　千歳空港発苫小牧行　9：10
(帰)　〃　　ウトナイ遊園地発千歳行 13：24, 14：14

〔野幌森林公園〕平成３年４月14日(日)
雪が消えた公園内にフクジュソウ、ザゼンソウ、エゾノエンゴサクなどが咲き、北国の春といった時期です。南から帰ってくるウグイス、アオジ、オオジシギなどの夏鳥達が姿を見せ始めます。なかなか聞くことができないといわれるキバシリがさえずりをする季節です。
午前９時　大沢口駐車場入口集合

〔宮島沼〕平成３年４月21日(日)
今年から新しく例会に入った場所です。この宮島沼は、冬を暖かい本州ですごしたマガンが北帰前に最後に立ち寄る休けい地です。最高時に２万羽を越すマガンを中心に観察をします。また相当数のハクチョウやカモ類も同時に見ることができます。
午前10時　大富会館前集合（美唄市）

〔野幌森林公園を歩きましょう〕平成３年４月７日(日)
午前９時　大沢口駐車場入口に集合です。余程の悪天候でない限り行います。
探鳥会の問合せは011－551－6321　井上宅まで

◆　新年懇談会の開催について
恒例の新年懇談会を、下記のような予定で開催致します。皆さんお誘い合せのうえ、多数の方々が参加されますようお待ちしております。
日　時　平成３年１月12日(土)午後２時から
場　所　札幌市婦人文化センター
（札幌市中央区大通西19丁目）
内　容
・講演……「宮島沼のガン調査」で有名な星子廉彰氏にスライドかビデオを使って「宮島沼のガン類」についてのお話をしていただきます。
・スライド映写会……みなさん方の持ち寄ったスライドを映写します。たくさんの方々の作品をお待ちしております。
会　費　500円

もくじ

私の探鳥地　⑮……矢野玲子……2
サハリンバードウォッチングの旅　(2)……柳沢信雄……3
話題の鳥たち　(2)……井上公雄……7
誌上写真展覧……8
探鳥会報告……10
探鳥会案内……14
鳥民だより……14

〔北海道野鳥愛護会〕年会費 1,500円（会計年度４月より）　郵便振替 小樽 1－18287
〒060　札幌市中央区北３条西11丁目 加森ビル５・６階 北海道自然保護協会気付 ☎(011) 251－5465